

悟りと自由 (マルコ 10:13-31)

人は皆それぞれ違うので、互いに比べることは、ある意味仕方のないことかもしれません。結果、人は人間的な条件、うわべ、違いなどによる比較意識から自由になることは無理に決まっているのではないのでしょうか。しかし、クリスチャンの私たちはここで一つ考えなければなりません。人間と神様との間に大きな壁が塞がれて止められていて、その結果、人とこのように比較するようになるものではないのか。もし神様と人との間のその壁が全部崩れ落ちて、神様と開かれた関係になり、神の祝福が通じ合うようになるとすれば、今まで見ていたこととは全く違う見方になるのではないのでしょうか。それでその悟りが与えられるときに、私たちは今まで仕方がない、当たり前だと諦めていた比較意識から自由になるのではないのでしょうか。今日の聖書の箇所を通して、そのことを考えていきたいと願います。

1. 救いの祝福は全き神の恵みと悟った時、Only イエスとなり、人のうわべから自由になれる。

まず第一に、救いの祝福は全き神様の恵みと悟った時、その人は初めて Only イエスとなり、その結果、人のうわべから自由になります。

1) 最低のうわべと最高のうわべ

今日の聖書を見ますと、まず 13 節から 16 節のところには、ある意味、最低のうわべのことが記録されています。ある人たちが子どもたちをイエス様のところに連れてきました。それで弟子たちがそれを見て、その連れてきた人々をしかつたと書いてあります。そのときにイエス様は憤って「やめなさい。天の御国は、この子どものような人のものなんだ」とおっしゃいました。それで、その子どもたちを抱き、頭に手を置いて祝福されたと書いてあります。なぜ弟子たちは、子どもを連れてくることをしかつたのでしょうか。それは子どもを無視する、人権を無視するという意味ではありません。当時、当たり前前に子どもはまだ経済力がないし、成長の段階なので未熟な状態だという意味で、人間的に影響などを持っていないということで、子どもはまだまだだと思っていたわけです。子どもといううわべを通して、評価していたという現れなのです。それに対してイエス様は、なぜうわべで人を判断するのかということで、子どもを祝福されたということです。それから、14 節から 25 節には、ある金持ちの青年がイエス様を訪ねてきて、「どうしたら永遠のいのちに預かることができるのでしょうか」と尋ねたときに、イエス様はいろいろなお話をされました。最終的に「あなたの財産を売って貧しい人々に施して、それからわたしについてきなさい」とおっしゃったときに、彼は財産がたくさんあったので、心配になって顔が曇って去って行ったと書いてあります。そこでイエス様は金持ちが神の国に入ることは、らくだが針の穴を通ることより難しいんだという話をされました。問題はその時にそれを聞いていた弟子たちが、驚いたとあります。そのお話を聞いてびっくりして驚いた。それでイエス様はもう一度そのお話をしたら、弟子たちがこのように質問するわけです。「そしたら誰が神の国に入れるのでしょうか」。金持ちが入ることができなければ誰が入れるのでしょうかということです。このお話の意味がお分かりでしょうか。つまり弟子たちは今まで当たり前前に、金持ちは神様に祝福されていた、貧乏な人はまだまだ神様に祝福されていない。だから祝福されていた金持ちが天国に入る、神の国に入ることに近くになってるということは当たり前前ではないのかと思っていたわけです。そういうふうに使っていたのに、それに対してらくだが針の穴を通ることより難しいんだとおっしゃっているから混乱してるわけです。「ええ？そしたら神様に祝福された金持ちが入れば誰が入れるのでしょうか」という意味です。つまり、今まで彼らは、人のうわべを見て神様の祝福を天秤にかけていたわけです。それが粉々になるそういう場面なのです。つまり、金持ちの青年というのは、子どもと比べると最高のうわべなのです。

2) 全き神の恵み

皆そのよういううわべによって人の祝福を評価していたことに対して、イエス様はそんなことはないよ。人が神様に祝福され、特に救いの祝福に預かることは、全く神様の恵みなんだということをおっしゃるわけです。子どもの場合には、この子どものように神の国を受け入れる人でなければ、神の国に入ることができない。それは子どもだから、まだ大人になっていないからあまり汚れていないので、それで神の国に入れるとか、そういう意味ではありません。子どもはまだ心が純真なので... そういう意味では

ありません。子どもも純真ではありませんよ。皆生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれて、小さな赤ん坊でも見ると、神を離れていたという証拠だらけなのです。そういう意味ではなくて、ここで子どもを指して子どもが意味することは、子どもは親によって生かされているもの、全く親を頼りにしているもの、自分の力では生きていけない、そういう象徴的な意味があるわけです。つまり、人が救いの祝福に預かることは、神様の恵み 100%であって、それの他にはないという意味なのです。それから金持ちの場合も、「誰が神の国に入れるのでしょうか」と聞いたときに、人間には不可能なんだ。しかし、神様にはそれがおできになる。つまり、神の恵みによって人は救われる者、神の国に入れられることになるんだということをおっしゃってるわけです。弟子たちはいまだにこのことがよくわかっていません。悟っていません。今までずっと律法の中で生きてきたので、それがしみじみくせになっているので、このような悟りとは遠い存在でした。それに対して、子どもやまた最高のうわべだった金持ちの青年を取り上げて、イエス様は救いの祝福、神の祝福は全き 200%神様の恵みの他にはありませんとおっしゃったわけです。そのときに初めて Only イエスが何を意味するのかがわかるようになります。それでその人は、今までこだわっていたうわべから自由になって、キリスト Only、イエス Only に集中することになります。それを自由と言います。

3) 最低は機会、最高は妨げ

そして、救いが全き神様の恵みだと悟ったときに、今まで最低だと思っていたうわべ、それが最高の機会になります。子どもだから貧乏だから救われるわけではありません。貧乏なので可哀想なんだね、救ってあげようかという神様ではありません。人間には救われるに値する良いものは何一つありません。いさおなどありません。神様の全き恵みなので、ならば人間的なうわべが最低の場合は、それが逆にチャンスになります。逆に今日イエス様がおっしゃるように、全き神様の恵みなのに、それを悟っていなければ、人間的に最高の条件、最高のうわべが妨げになります。邪魔になります。それにいつもしがみついて、なかなかそこから離れようと、手放そうとすることが難しいので、それが学歴なのか、その人の良いソフトな性格なのか、あるいはバックグラウンドなのかわかりませんが、今まで積み上げてきた業績なのか、あるいは実力、知識なのかわかりませんが、なかなかそれを手放すことができないまま、Only イエスになれないのです。たとえ教会に通っていてもなかなかできないのです。何か違うものにこだわる、違う人間のうわべにこだわって、結局こだわること自体がいまだに自由になっていないままその奴隷なんだということです。しかし、救いの祝福は全き神様の恵みだと悟ったときに、Only イエスとなり、今までこだわっていたものによって劣等感、優越感等々に振り回されて、それで比較意識に囚われるしかなかったそこから自由になります。真理があなたがたを自由にしますというのは、このような意味なのです。

2. イエスの中にある完全な祝福を悟る時、世のものから自由になれる。

それから Only イエスになって、人のうわべから自由になったものは、二番目です。そのイエス様の中にある祝福が完全なる完璧な祝福だと悟るときに、世のものから自由になります。

1) 捨てた者-Only イエス

イエス様が弟子たちに言いました。まず弟子たちが、「ならば私たちは何もかも全部捨ててイエス様に従いました。だから、私たちは大丈夫でしょう」と言ったときに、イエス様が「わたしのために福音のために何もかも捨てたものは祝福されるよ」とおっしゃいます。これは因果応報ではありません。ここで捨てたということは、イエス様を信じるためには、親も捨てて兄弟も捨てて仕事もすぐに辞表を出して、そういう意味ではありません。ここで捨てたというのは、それより強い意味なのです。物理的に捨てるという意味ではなくて、Only イエスの意味です。今までそれによって生かされていた。それを頼りにしていた。また、それに影響を受けていた。そういうところから完璧に切り離されて Only イエスになった者、イエスに従う者は祝福されるよと。

2) いのちの祝福(ヨハネ 5:24、ガラテヤ 2:20、I コリント 3:16)

どのような祝福なのでしょう。Only イエスになった人は、そのイエスの中にこの世で言われているような祝福ではなくて、いのちの祝福が与えられます。世にあるどのようなすごいものでも与えることができないいのちの祝福です。いのちの祝福は何でしょうか。ヨハネ 5:24、「まことに、まことに、あ

なたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、永遠のいのちを持ち」と言われました。それはすぐに物理的に目に見えるものではありません。そのいのちは何かと言いますと、ガラテヤ 2 : 20、私はイエス様とともに十字架で死んだ。今は私を愛してご自分のいのちを代わりに捧げたキリストを信じる信仰によって生きる、そのキリストが私のうちに生きていますよと。それがいのちなのです。その結果、I コリント 3 : 16、あなたがたは聖霊が宿っている神の神殿であることが分かっていないのか。三位一体の神様が、罪人であった私たちの罪が赦されて、私たちの内側に入って住まいにして、その三位一体の神様と一体となることをいのちと言います。だから、その人はこの世を生きているけれども、ローマ 8 : 1-2、死と罪の原理から解放されて、いのちと御霊の原理の中に入れられることとなります。分かりやすく申し上げますと、右に転んでも左に転んでも全部がいのちの祝福になる、そういう世界に導き入れられることとなります。これをいのちと言います。つまり簡単に申し上げますと、神を離れていて滅びるしかなかった、悪魔サタンを父と呼ぶしかなかった運命に囚われていた地獄の民がそこから完璧に解放されて、三位一体の神様がともにおられるいのちあるものになりました。外見、うわべが物理的にどうなるか以前に。だから外なるものは衰えてもというのは、私たちは迫害して肉の命を奪うことができたとしても、このイエスのいのちは触ることも奪うこともできません。永遠のいのちなのです。だから内なるものは更に強くなるという不思議な世界を生きることとなります。イエスの中にはこのいのちの祝福があります。天にある霊的すべての祝福と言われているものです。神ご自身を与えられました。これがイエスの中にある祝福なのです。

3) 御座の力(イザヤ 40:31、ゼカリヤ 4:6、使徒 2:1-3)

だから当然、ここで吟味して耳をすましていただきたいと思うのです。いのちの祝福があるからこそ、今まで聞いたことも見たこともないすべての門が開かれて、天の御座の力が与えられて働くその祝福の主人公になります。皆さんが偉いから、性格が良いから、知識があるからではなくて、イエス・キリストの中にいのちを持っているから、そのいのちを根拠にして御座の祝福、御座の力が注がれるようになりました。これがイエスの中にある祝福なのです。だから何も心配しないように、言い訳など捨てるように。また、なにか争うことがあれば譲りなさい等々言われていることは、こういう祝福を根拠にして言われることなのです。イザヤ 40 : 31、どのような力なのでしょう。「しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる」。鷲が上ることを見たことがありますか。すべての風を逆手にとって上るのです。これが鷲の力です。「走ってもたゆまず、歩いても疲れぬ」、そういう力が与えられる祝福の主人公なのです。ゼカリヤ 4 : 6「すると彼は、私に答えてこう言った。「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は仰せられる」。これがマルコのタラップンで五旬節の日に成就したわけです。世界福音化のイエスの証人となる力が与えられました。そういう力の主人公になったということが祝福なのです。ほかの人と比べて偉い者になったということではありません。そういう祝福に左右される存在ではありません。使徒 2 : 1-3 にこのことばが成就しました。それから I テサロニケ 1 : 5「なぜなら、私たちの福音があなたがたに伝えられたのは、ことばだけによったのではなく、力と聖霊と強い確信とによったからです」。力と聖霊と強い確信という力が与えられるわけです。皆さんの内側に、皆さんがみことばをおあかしするときに、こういう力によって皆さんの説得力や皆さんの礼儀正しさによって人が変わるわけではありません。もちろん、それを気をつけなければいけません。でも、人を変えて、人が救いの祝福に預かることは、力と聖霊と強い確信によります。今、礼拝を捧げている皆さんひとりひとりがこの約束を信じて主を見上げれば、力と聖霊と強い確信が皆さんに与えられるはずなのです。なぜでしょうか。皆さんはキリストであるイエス様を信じて、いのちの祝福を持っているからです。自負を持って確信をもって、だから心配しないで求めるわけです。その結果なのです。いのちの祝福があり、御座の力の主人公になるので、当たり前で征服者の道歩くようになります。これが祝福です。生めよ、増えよ、地を満たせよと言われていた祝福を全部奪われて失っていたのですが、それを回復するようになります。

4) 征服者の道(マルコ 16:17-18、マタイ 5:14、エペソ 1:23)

イエスの福音、イエスの愛によって征服者の道へ。マルコ 16 : 17-18、イエスの名によって悪霊を追い出す、その道を歩むようになります。新しいことば、いのちの福音を語るその祝福です。病人に手を置けば病人が癒されるその祝福。誰も真似できない Nobody の征服者の道を歩くようになります。そし

て、マタイ 5:14、あなたがたは、世の光です。暗闇の世が砕かれて、そこに光を放つ人生を歩くようになります。皆さんはいのち、光として動いているのです。皆さんが行くところには必ず暗闇が去っていき、死の力が砕かれるようになっていきます。それが祝福なのです。大金持ちになるのが祝福ではありません。優しい親に恵まれることが祝福ではありません。変な親に苦しめられることになった。それが最高のチャンスなのです。Only イエス。私たちは人に左右される存在ではないのに、神との関係が塞がれてしまったので、全部が人によって左右され、人を意識して、人を気にして、それがトラウマになり傷になり、完全に悪霊の奴隷となってしまいます。正しく悟ったときに自由になります。肉ではなくて人間でもなくて、霊のこと、神を意識して。皆さんに福音の光、神の光が入ってきたときに、人との壁も全部崩れるようになります。なぜ人との壁を作っているのでしょうか。上に壁がいまだにあるからです。至聖所と聖所の間に分厚いカーテンで仕切られていました。イエス様が十字架で死なれたときに、上から下に真っ二つにそれが分かれ破れて神様の光が通るようになりました。皆さんのたましいにキリスト・イエスの光が通るようになりますと、人との壁も崩れ、人を見る見方が変わるし、そこにも光が入ってくるようになります。物理的にもすべてのカーテンを開いて太陽の光が入ってくるようになります。なぜ引きこもるのでしょうか。人との壁を作っているからです。それが人のせいだと思ひ込むように悪霊が握ってるわけです。だから人が怖い、人が嫌い。でも本当は神との間の壁が壊れていないので、全部が暗く見えるしかないのです。この壁さえ取っ払って神の光、キリストに光がその人の心に照らされると、人生そのものの壁が全部崩れて、人を見る目が変わります。人は怖い存在でも、嫌な嫌いな存在でもありません。イエスの愛が必要な罪人なのです。神様のキリストの光によって癒される祝福を祈ります。イエス・キリストの中には征服者の祝福があります。だから皆さん自分自身を大事に大事に誇りに思わないといけません。うわべで評価するから、いまだに奴隷なのです。うわべの奴隷です。そうならばヨセフは奴隷ですがどうしましょう。ダビデは末っ子で羊飼いで逃亡生活をして、なぜそこで勇気を出せるのでしょうか。今までの勘違いから自由にならないといけません。イエスの中にあるものはエペソ 1:23、キリストのからだなる教会となります。いつも申し上げているように、皆さんを通してキリストがしみじみ流れ出るようになっていきます。皆さんのどうのこうのとは関係ありません。イエスを信じる私はそういう存在です。親がどうであれ、私には関係ないのです。1ペテロ 2:9、あなたがたは王である祭司、イエス様と同じ名前がついている征服者の道。2部礼拝の時にも申し上げますけれども、この祝福を悟って、今までこだわっていたものから自由になって、こだわりを未信者の救い、福音宣教の方に移していかないとはいけません。教会に集まることはとても大切なのです。でも、そこで終わりになると、それは神のみこころではありません。もうひとつのまた逃げ口のようなものになります。イエス様を信じる者に与えられている祝福は、そんなものではありません。必ず征服者の道を歩くようになります。

5) 加えて与えられる恵み(マタイ 6:33)

この祝福に加えて与えられる恵みなのです。マタイ 6:33。神の国とその義を求めなさい。そうすれば、それらのすべては加えて与えられる。その加えて与えられることがイエス様の言葉によりますと、百倍、一千倍の祝福になると言われています。つまりイエス様の中にある完全な祝福を本当に悟ったときに、この世のものを恐れることも羨むことも問題にすることも引っかかることもありません。自由になります。皆さんがその主人公であることを改めて感謝しましょう。

3. この祝福を信仰により味わう人が用いられると悟る時、人間的な条件(言い訳)から自由になれる。

それから最後の三番目です。このような祝福が間違いなければ、この祝福をただ信仰によって味わう人が神様に用いられるんだと悟るときに、人間的な条件、言い訳から自由になります。

1) (31)

今日の聖書 31 節にイエス様が不思議な言葉をおっしゃいました。「しかし、先の者があとになり、あとの者が先になることが多いのです」。いろいろな解釈があります。

2) ユダヤ人-異邦人、先に信じた人-後に信じた人、有利-不利

しかし、人々はユダヤ人が先にみことばをいただいて召されたので有利だと思っています。しかし、キリスト・イエスの中にあってそういうこと全部消えて撤廃されます。ユダヤ人だろうが異邦人だろうが

関係なく、この祝福を信じて味わう人が先になります。それを味わうことには身分や社会的な国籍や肌色など一切関係ありません。また、先に入信して信じた者、また後に信じた者、たしかにあります。だから、後に信じた者が遅れるだろうということはありません。誰がこの祝福を信じて信仰によって味わうかによって神様に用いられるようになります。ならば先なのか、後なのか、それは関係ありません。そういう意味なのです。

3) 今の言い訳の材料が証拠へと変わる

だから、いろいろな人間的な条件、不利、有利などはあるでしょうけれども、それは言い訳になりません。自由になるのです。人間的に有利な条件、不利な条件、いろいろあります。特にアフリカよりは日本の方が福音宣教の働きに不利なんだ。アフリカは有利なんだ。それでパン一つあげても人がいっぱい集まるから、という考え方はよくありません。日本は不利なのか。そういうことはありません。皆さんがこの超越の祝福を本当に信じて味わうのであれば、何も言い訳になることなどありません。逆に今まで言い訳の材料になっていたものが全部証拠に変わります。ヨセフは奴隷でした。しかし、一言もそれが言い訳になっていませんでした。でも、今の私たちは、特にレムナントは全部が言い訳です。うちのお父さんが、親がこんな人間で、あるいはまだ未信者で邪魔しているから等々、いろいろあるかもしれませんが、それはもちろんいろいろ配慮しないといけないでしょうけれども、言い訳にはなりません。だから、後の者は後、先の者は先ではありません。そこでそれを超越する、イエス・キリストの中にある祝福を味わう人は超越します。ヨセフはそうでした。ダビデは死の影の谷を歩いていました。それを言い訳などにしていません。だから、私はだめだということは一度も考えたことはありません。辛いという思いはありました。でも、すぐに切り替えて、主のご計画を感謝します。なぜでしょうか。神の契約は、彼らの当時、キリストが来られる創世記 3:15 の契約は誰も変えることができません。その契約を握って、いま with、インマヌエル、ワンネスの祝福を味わっていたのです。だから、そのような不利な条件の中でも彼らは用いられました。初代教会は激しい迫害の中であって、集まっている人間を無能な人間ばかりでした。申し訳ありませんけれども、こちらの教会のメンバー見ても、社会的にそんなにすごい人とか財力がすごい、何かの保証のためにお願いしようとしても、保証人になれるような人も一人もいません。だから、それが僕にとって言い訳になるとそれは私の問題です。初代教会は下っ端をくぐる人間ばかり集まっていました。それが全部証拠に変わります。弱い者を用いて強い者を辱しめる。小さな者千にすると。それを見せつけるための材料なのです。また、パウロ場合は、刑務所の中に入れられました。だから「なんでこうなるのか。刑務所だからダメ」ということは一度も言ったことがありません。むしろ刑務所に入ったから神のすごいわざがなされたというおあかしをしているのです。何も言い訳がありません。なぜでしょうか。この超越の御座の祝福を自分のものと信じて味わっていたからです。いま古きからの習慣がなかなか断ち切れない。また、信じる前からのいろいろな霊的な問題や、いろいろな弱さがそのまま残ってそうしたくないし、なりたくないのに、つついそれにまた振り回されることがあるかもしれません。それでうっかり信じたのにこんなもんかと思うかもしれません。それも言い訳になってはいけません。構いません。だからこそ Only イエス、キリスト・イエスにある御座の祝福です。今までである意味、私たちは感覚もありませんでした。でもイエスのいのちがあるから、それが私のものなのです。復活の御座にいらっしゃるイエス様が信じるひとりひとり、小さな子どもから年配に至るまで聖霊を注ぐとおっしゃっています。聖霊を与えるではなく注ぐです。今も 24 時間注いでいらっしゃるので、それにフォーカスを合わせれば、皆さんの霊的な問題や弱さなどは一切、気にしなくても構いません。すぐに変化がなくても落胆しないで諦めないで言い訳にしないように。味わうことです。祈りによって味わうのです。そうすると自由になります。

これから皆さん、こだわりをチェンジしましょう。今までは人のうわべなどにこだわっていました。それを Only イエスにこだわりを変えましょう。世のものがどうなのかにこだわっていました。そこから目に見えないけれども、それをはるかに上回る宇宙も動かすことができる霊的祝福にこだわりを変えましょう。今までは人間的な条件など、あそこには優しいお父さん、お母さんがいるのに、私には両親が誰もいません。私は捨てられたということにこだわらないで、御座の祝福を味わうことにこだわりを変えましょう。私は小さい頃、教会に通うまでは、お寺を作るようなお母さん側のおばあさん、おじさんの所に住んでいました。その時は一年の半分ぐらいは病名も分からないまま病院のお世話になっていました。それで、そこからお父さん側のおばあさんの所に引っ越して、そのおばあさんが教会に通って

いたので、それから私も教会へ通うようになりました。それでその病気は無くなりました。不思議に。しかし、その時もいつも私は母親が早く死んでいない。小さい時から母の愛情など知らないで育った、ということがどこかにずっとあって、それがコンプレックスになって、いつも言い訳になっていたのです。だから、そういう人間に育つしかありません。表でどんなに振舞っていても、心のどこかでは...全部嘘なのです。私が神様と出会っていませんでしたので、イエス・キリスト知らなかったのです。この世にあるもの、人間のことしか分かっていないので、神様と神の祝福とすべてを超越できる福音の力と御座の祝福などまったく知らないでいたので全部が言い訳なのです。お母さんがいなくても早く死んでしまったとしても、私をもしかして捨てたとしても、それがどうした？それが言い訳になっている限り、その人はイエス様を信じると言いながらも、Only イエスでもない、御座の祝福と遠ざかっていて味わうということは全く無縁なクリスチャンの歩みをしているに違いありません。神様はそこを私たちに取り戻して回復させるために、むしろ金持ちの青年でなくて、子どものように最低のうわべを許される場合があるわけです。感謝しましょう。昔、人にいじめられて心に傷を負った。感謝しましょう。親が私を捨てた。感謝しましょう。これが霊的戦いです。これが自由なのです。いつまでも悪魔の偽りの奴隷にならないようにしましょう。自由になり、その自由を思う存分、味わう素敵なクリスチャンにひとりひとりになっていきましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。不思議な不思議な神様の愛と導きと祝福を感謝します。今まで目に見えるものだけに、人間だけににこだわり悪魔に騙されていたところが砕かれて、Only イエスとなる御座の祝福が本当の祝福として受け入れられて、それを味わうことにすべてがあるということを感じて悟るように聖霊様が働いてください。その悟りによって今まで囚われていたすべてから解放されて自由になり、これから人を生かすイエスの証人として尊く用いられるひとりひとりになるように祝福してください。 イエス・キリストの御名によってお祈りをいたします。アーメン